

街歩きの楽しさ!

イラストレーター

すずきもも



旅に出ると、普段暮らしているときより多く、歩きませんか？ 私の旅行はいつでも街歩きの旅になってしまいます。街を歩くと、その街の匂いや景色、人々の暮らし、観光名所めぐりでは見えてこない、さまざまな息づかいが感じられるのがとても面白いのです。

ずっと以前に行ったロサンゼルスでも現地のバスに乗ったり、歩いたりを繰り返していました。宿がハリウッドだったのでそこからビバリーヒルズに向かい、ラシェネガ通りを南下して、途中、バスに乗ってサンタモニカへ行き、ひなたぼっこをしたり。バスに乗るときはレディーファーストで先に乗せてくれたり、お昼に入ったカフェテリアの従業員がみんなモデル並みにきれいだったり、5月に行ったLAでしたが、半袖の人や革ジャンの人もいて、乾燥した空気の中に気候の違いを感じたりしていました。短い旅だったけれど歩くことで街のリズムが見えてきて、自分がなじんでいくのが面白いなと思ったのです。

また、1ヶ月、フランスに滞在したときです。その旅はキッチン付きのアパートメントホテルを拠点にし、エクサンプロバンスに滞在する旅でした。毎日列車で今日はアビニョンへ、明日はルションへ、明後日はマルセイユへなどという日帰りの旅を楽しんでいました。

当然、降りた駅からその街をてくてく歩き回ります。石畳の街の歴史の深さを感じながら歩いたのは言うまでもなく、300年、500年の歴史を経た建物もぞろぞろ。とても若いときだったのでお昼

ご飯は現地の人のまねをして、屋台でアルミホイルに包まれたバゲットサンド（いつでもどこでも必ずあった）とエビアン水を買って、日当たりのいい公園に座ってもぐもぐ。

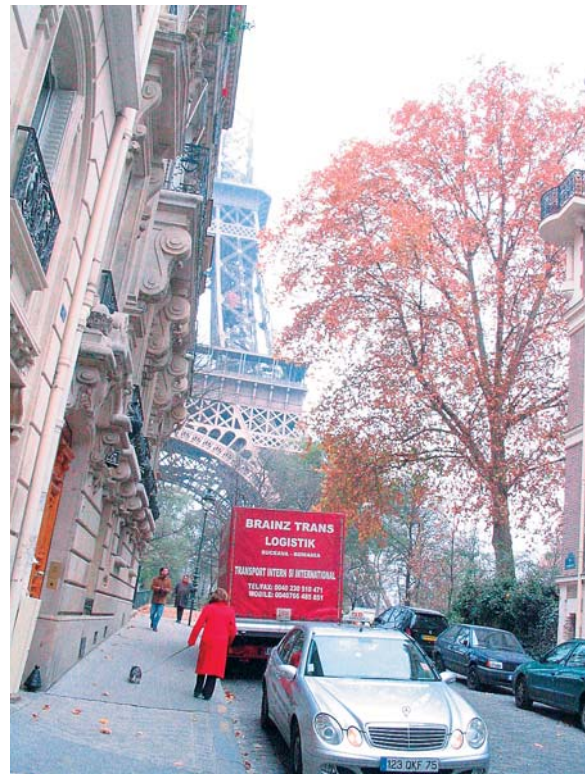
いろんなところに行った帰りはマルセイユで列車を乗り換えエクサンプロバンスに戻る事が多く、駅で列車を待っていると週末など若い兵隊さんが家に帰る時間に出くわします。ああ～フランスって2年間の兵役があったんだ。と日本では見慣れない風景にちょっとびっくりしたことも。また、拠点にしたエクサンプロバンスも本当に素敵な街でした。今年の2月に近代美術館でセザンヌ展を開催しますが、そのセザンヌのアトリエがあり、セザンヌがよく絵にしたサントヴィクトワールという山がすぐそばにそびえています。

街にはミラボー大通りというカフェやお店が並ぶ大きな通りがあり、その通りにある画材店がとっても素敵で何度も通っていました。たくさんの有名アーティストが通ったお店に自分も行ったことに妙なうれしさを感じつつ、カフェでお茶を飲んで過ごしたり、市場にお買い物に行って夕ご飯を作って食べたり。今思えば、とてもチープだったけれどとっても楽しい思い出です。だから、どこに行ったとか、何を見た、という明確なものはほとんどなくて、「街になじんで溶け込んでみた」そんな体験の旅でした。それで溶け込んだせいなのかフランス滞在中、フランス語はもとより英語も満足にまもらないのに何度も道を聞かれました（笑）。

昨年久しぶりにヨーロッパを旅しようと思い立ち、子どもと友人と一緒にパリに1週間滞在しました。今回の旅は子どもの学習を兼ねて、美術館巡りの旅。パリ市内の街の真ん中にキッチン付きホテルの宿をとったのですが、それが幸いしました。なぜって、行った季節は11月でパリで一番ストの多い季節。このときは世界中でストの報道をするくらい大規模ストライキの真っ最中でした。公共交通機関はほとんど動かず、タクシーもつかまらずという事態に陥っていました。なので、必然的に歩くことに。それで幸いだったのは宿の場所がどこに行くにも徒歩圏内のサンジェルマンのセーヌ沿いだったからです。

ここからは歩いてルーブル美術館もオルセー美術館もちょっと遠かったけれどエッフェル塔もポンピドーセンターも至近距離で歩くことが可能だったのです。きっとたくさん歩くだらうことを予想して、足のむくみ取りや湿布を持って行ってとっても重宝しました。

以前行ったエクサンプロバンスの旅とは違い、時間的余裕のない旅だったけれど、歩くことでパリの人々にたくさん会いました。セーヌに架かるいろいろな橋で散歩する人々や寒くても外のカフェでお茶を飲む人、近所の美術学校に通うおしゃれな学生たち、美術館に学校の授業で来ている小学生や中学生（いいなぁと子どもと2人ため息です）、したたかな雑貨屋を営むアラブ系の人、混雑して長蛇の列でも全くマイペースのスーパーマーケットのレジ係の人、日本語の通じない日本語メニューのお寿司屋さん、安くて美味しいフレンチチェーンズのお店の人たちなど、パリでは



エッフェル塔を望む

そこに暮らす様々な人種の人たちが多種多様に自分たちらしさを大事にたくましく暮らしているように感じました。

旅から帰ってくると住み慣れた街にホッとすると同時に、次の旅への期待もむくむくと込み上げてきます。きっとどこへ行っても感じたいのは、そこに暮らす人たちの息づかいなのかもしれません。それを感じるためにも街を歩くのだと思います。自分の足で歩いて、目で見、触れることがいつでも一番楽しいからなのです。

すずきもも

Profile

東京生まれ、北海道育ち。札幌大谷短期大学美術科デザインコース卒。広告や雑誌を中心としたイラストレーションの制作の他、出版、壁画、雑貨製造、磁器絵付け等、多岐に渡って仕事をしている。またイラストレーターとしての傍ら、食の世界に足を踏み入れ、様々な分野で活動中。パンに焦点を絞って立ち上げた「だい好きパンの会」は今年で12年目を迎え、小さいながらも充実した活動を行っている。他に、スローフードにもテーマを置き、街で生活しつつスローフード・スローライフの実践を試みている。

2007年に「さっぽろおさんぽ日和」（北海道新聞社）

2008年に「おさんぽ日和 さっぽろ近郊のほほん旅」（北海道新聞社）を出版

2009年はパンのエッセイ本を東京の出版社から1冊、道産小麦とパン屋さんのガイド本を北海道新聞社より1冊、刊行予定。

●だい好きパンの会 事務局 局長 ●北海道スローフードフレンズ帯広事務局 ●北海道イラストレーターズα会員

